

第 20 回環境省政策会議（議事要旨）

日時：平成 22 年 3 月 24 日（水） 8 時 15 分～9 時 00 分

場所：衆議院第 1 議員会館民主党 A 会議室

議題：

- （1）地球温暖化対策に係る中長期ロードマップ調査検討会の検討状況について
- （2）平成 22 年版環境白書（骨子）について
- （3）その他

<田島副大臣より挨拶>

<地球環境局長より説明>

<大谷政務官の司会により意見交換・質疑応答>

- （1）地球温暖化対策に係る中長期ロードマップ調査検討会の検討状況について

ー以下、主な意見及び回答ー

○基本法の施策が 22 項目あると思うが、それときちんとマッチングしているのか。検証できるような資料にしていただかないと。もうちょっと整理していただきたい。表現で 25%が「可能」となっているが、数字がぶれる可能性があることを示唆するような言葉であるので、そのあたりをきちんとおさえていただきたい。それから、排出量が 2005 年ベースになっているが、90 年対比が 25%ですから、2005 年がどういった数字なのか、90 年対比よりも多く削減しないと 25%にならないということが言えるんじゃないか。なぜ 2005 年をベースにするのかというところをしっかりクリアにしてほしい。もう一つ、マクロフレームをしっかりと説明していただかないと。経済指標をどう見るかということ。そこら辺の説明も。項目が多いので、それぞれの項目ごとに説明会があるとよかった。いずれにしても 25%が可能だということと、項目をマッチングさせて入れていただくこと、分かりやすく数字を教えてください。

○内容についてではないが、このロードマップ（たたき台）というのが今後どういう日程で具体的になっていくのかが分からなかった。基本法と一緒に走り出すということをおっしゃっているけども、実際考えてみるとあと 1 ヶ月の話なのかなと思うが、これからの進み方をもう少し詳しく教えていただきたい。

○ロードマップは大変意欲的なものが並んでいる。私としても嬉しいところがあるが、再生可能エネルギーの大規模水力発電がカウントされている。例えば、世界の中では、大規模水力発電というのは再生可能エネルギーにカウントしないと共有されている部分。環境への影響とか出力に必要なエネルギーが多いこと。ここがやっぱり議論が必要なのではないかと。ヒートポンプに関しても、出力された発電量をそのままカウントするのではなく、やっぱりコンプレッサー動かす時のエネルギーを差し引いたもので再生可能エネルギーとしてカウントするべきではないかと思う。それと、この資料

だがこれは公開されているものか。

(地球環境局長からの回答)

基本法とのマッチングとしては、考慮して今後精査していく。25%は「可能」ということですが、当然 25%を実行するためなので、これはぶれるということではないと思っており、表現に気をつけたいと考えている。現状ベースからどのように削減するか、分かりやすいということから 2005 年をとっているの、目標としては、あくまで 1990 年から 25%削減したところを、25%削減するようにしており、ぶれてはいない。これは数字として、一番データが揃っているのが 2005 年という話。あくまでも目標量は 90 年比 25%削減ということ。

これからの進め方については、26 日に最終報告がまとまり、その後おそらく 3 月の小沢環境大臣試案として、環境省としてのたたき台をまとめるのが第 1 段階になる。その後、中環審、その他各方面からの意見を聞く形で進めていく。その間、基本法の審議に入る可能性が高いと思う。したがって、基本法の審議の際には、これを提案した環境省の責任者小沢環境大臣も、一つの絵柄を示して、その次の段階で政府としてロードマップを作るという段階になる。ただし、ロードマップという名前で作るのかということは、基本法が成立すると、基本法に基づく基本計画を作るという段階になる。その策定作業をいつ始めるのか。もし、基本計画策定を始めるならば、そこではロードマップの検討というよりは、基本計画策定の検討になっていくのかと思う。政府内の合意は無いが、ロードマップとともに基本計画策定案、策定のための政府一体となった取り組みとなっていくだろう。

再生可能エネルギーについては、大規模水力は EU でも大規模水力もカウントしているという状況で、性格としては再生可能エネルギーと考えているので、大型水力も合わせて再生可能エネルギーとして取り扱っている。ヒートポンプは、現時点では、基本法上もまだカウントしていない。ただ、おっしゃるようにヒートポンプで空気中の熱に取り込めるというはっきりした数値がある場合には、これは再生可能エネルギーにすることもあり得る。ただ、データや計算式等々、今は十分ではない状況である。

○2005 年の数字を現状とおっしゃったが、現状であれば一番近いのは、2007 年。データがない、分析ができないのだったら、そうしておかないと。もう一つは前から申し上げているが、京都議定書の 5 年間の実績値、何が出来たんだという、いままでやってきたことの評価をされてないような取り扱いになると紛らわしいんじゃないかと思う。

○一つは、ロードマップのスケジュール表のスタートが 2010 年になっているが、この計画が具体化して動き出すのはまだ先だと思う。2010 年というのはどういう位置づけなのか。また、コスト 100 兆円が出ていたが、この説明がない。根拠を教えてください。

○中長期ロードマップを作るのは大変なこと。2020年まで大変長いですが、技術の革新は大変早い。データがない中で、ここでただどうこういうより、一年ごとに見直していく、技術量がアップしたから、目標がこう変わりましたよとか、期間を半年か一年ごとに見直しながら、アップしていくという努力を重ねていけばいいのではないか。たたき台は良くできていると思っている。これを容認してこれから先どう変わったかということ議論のたたき台にしながら、2020年よりも1年でも2年でも早く目標が達成できるよう努力する形で進んでいかないといけないと思うので、これを作ったことでこれからも頑張っていたきたい。

(地球環境局長からの回答)

取り決めた年度に違いがある。投資の中身については、資料の47頁を参照してほしい。また、いずれ見直しについてもプロセスに加え、取り組んでいくことになっていくと考えている。

(田島副大臣からの回答)

ロードマップの検討結果については、色々言いたいことがあるだろうが、26日の議論を受けて、また政策会議で報告する。皆様から理解を得ていくためのたたき台である。また、シンポジウムも行うことになっている。

(2) 平成22年版環境白書(骨子)について

<総合環境政策局長より、資料を用いて、平成22年版環境白書の骨子について説明。>

(特に意見等は出なかった)

以 上